

2020年4月24日

青葉コミュニケ2

世界中の X 線科学研究施設が取り組む COVID-19 の克服

COVID-19 パンデミックで、世界中の人々がコロナウイルスにより命を奪われ、病に苦しみ、悲しみに暮れる中で、全世界の科学者と X 線科学研究施設は、これまでになく、結束を強めています。そして、パンデミックに見舞われた人々の治療に最前線で携わる、すべての医療従事者の方々の弛まぬ献身に、心からの敬意と永遠の感謝の気持ちを表します。

X 線科学研究施設、すなわち、X 線放射光施設と X 線自由電子レーザー施設を結ぶ国際的なネットワークは、このパンデミックの克服に深く携わっています。これらの施設の役割は、新薬の開発、治療法、医療機器の開発において、COVID-19 パンデミックを調査し、知見を得、課題を解決するために、効果的な研究・技術開発を考案し、実行することです。

この取り組みはすでに世界中で始まっており、多くの X 線科学研究施設が、SARS-CoV-2 ウイルスに焦点を当てた研究で培った技術や設備を、COVID-19 に特化した研究テーマに取り組む科学者たちが迅速に利用する機会を与え、遠隔からネットワークを介して実験できる設備を提供しています。

2019年4月、X 線科学研究施設は、日本の仙台で開催された最初のサミット“Summit Meeting of Innovation in SR”(SR9)に集まり、「**大学、産業、施設の連携の展開**」について、進むべき方向性と戦略を協議しました。

この度、X 線科学研究施設がさらに協力、連携し、COVID-19 パンデミックの研究と課題解決にむけた研究のサポートを強化することを目的として、2020年4月23～24日の第2回 SR20 サミットを Web 会議で開催しました。そして、世界中の施設が過去数週間にわたり取り組んできた経験を共有し、全施設が戦略に国際協力を展開することを決議しました。

集まった X 線科学研究施設は、以下の活動計画を採択しました。

- 1) すべての X 線科学研究施設は、COVID-19 パンデミックに対処する科学研究において、情報を共有し横断的な取り組みを発展させる。
- 2) あらゆる課題に施設を活用するために、大学および産業界の利用者とともに、世界的な X 線科学研究施設ネットワークの構築を検討する。
- 3) 情報の共有を促進し、施設間のグローバルな協力を加速し、施設横断的な科学プロジェクトに最も迅速かつ効果的に取り組めるよう、IT システムの研究開発を推進する
- 4) 利用者が施設へ移動することなく、利用者が遠隔操作で実験できるリモートシステムや、実験試料を送付して実験するメールインシステムの経験について情報を交換する。
- 5) X 線科学研究施設と他の分析施設、例えば中性子、クライオ電子顕微鏡、レーザー、核磁気共鳴などを用いる施設、との組織的な取り組みを進める。